

発表番号 8

「低コスト林業推進のための路網整備・機械化の取組について」

山梨県森林総合研究所 研修・普及科
副主査・林業普及指導員 柘植 賢二

1 課題を取り上げた背景

国内の人工林資源が利用期を迎えたことなどに伴い、国産材への需要が高まりを見せています。しかし、材価の低迷が続く中、今まで造林保育作業を業務の中心とし、木材の搬出作業に慣れていない森林組合や林業事業者はもちろん素材生産事業者にとっても木材の搬出コストをいかに抑えるかが重要な課題となっています。

そこで、これから搬出作業を本格的に始める事業者、技術のステップアップを目指す事業者など、それぞれのレベルに応じた普及指導活動を実施することとしました。

2 具体的な取組

これから搬出作業を本格的に始めようとしている事業者に対しては、森林作業道の作設技術向上を目的に、国の事業を積極的に活用するなどして適切な知識・技術を持ったオペレーターの育成に努めました。

また、研修を修了したものの技術に不安がある事業者については、実際に作設作業をするにあたって現地で路線計画や作設方法についての指導を行い、「壊れにくい道づくり」の普及に努めました。

技術のステップアップを目指す事業者に対しては、現行の作業システム



森林作業道の現地指導の様子

の労働生産性を改善することを目的に、やはり国の事業を活用して先進的
林業機械の試験導入を実施しました。

3 取組の結果

こうした取組の結果、森林作業道の作設技術を習得した事業者等により
民有林での路網整備が進み始めました。一部では研修を受講したオペレー
ターが在籍する建設会社と森林組合との協働が行われるなど、森林作業道
の普及に向けた新たな体制づくりにも寄与することになりました。

国産ホイール式フォワーダを試験導入した県内有数の素材生産事業者
であるM社では、実証試験等の結果、労働生産性の改善効果を確認できた
ほか本格導入に向けた課題が明らかになりました。

4 まとめ

森林作業道づくりについては、研修等を通じて一定の知識・技術を身に
付けたオペレーターが増えてきました。今後は、現場で適切な道づくりを
確実に実践してもらうための取組が求められますが、森林経営計画の策定
等による施業集約化の支援などは、森林作業道を「自らが長く使う道」と
認識してもらうための有効な手段と考えられることから、より積極的に行
っていく必要があります。ただ、「道」は木材搬出作業の手法の一つに過ぎ
ません。地形等の自然条件や様々な社会条件などを十分考慮し、それぞ
れの現場に合った作業システムを選択する必要があります。例えば「架線集
材」も選択肢の一つとなりえますが、技術の伝承や関連する機械・器具の
安定的な確保等が危ぶまれていることから、研修の実施や機械に関する情
報提供等を通じて、事業者の技術力向上を支援していきたいと思いを
ます。

また、大型機械の導入にあたっては経験が少ない事業者はもちろんのこと、
一定以上のレベルにある事業者についても機械をより効果的に稼働さ
せることができるよう、作業システムや工程管理等について指導を行っ
ていく必要があります。